



上越妙高駅・駅周辺定点観測レポート  
駅利用 ≠ 鉄道利用  
-2023/4-2025/12 定点観測データで見る上越妙高駅エリアの変化-

※本レポートでは、駅構内・駅前エリアでの滞在・行動を含めた利用を「駅利用」と定義します

2025.1.20 デジタルマネージ・ウィズエー株式会社

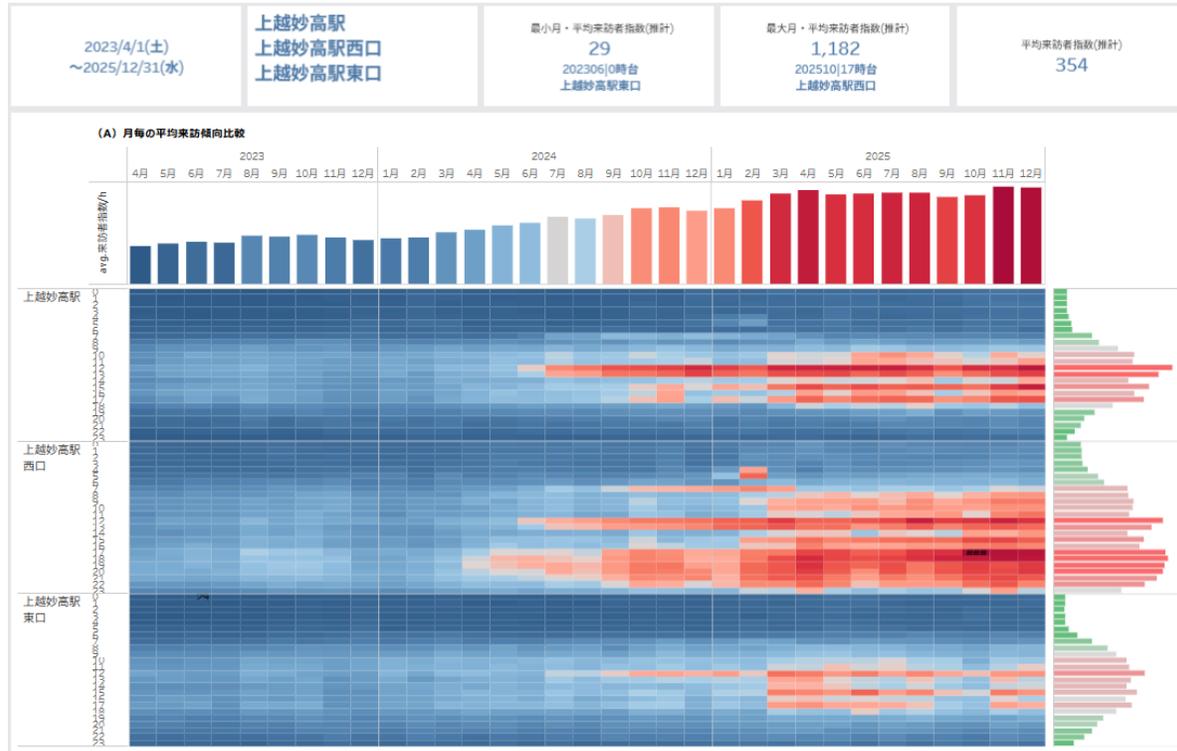
※本資料にて使用する当社以外の資料・データならびに商標・商号等の権利はその所有者に帰属します



※駅来訪の増加割合よりも顕著  
⇒“鉄道利用”では説明できない周辺エリアの活性化が可視化

上越妙高駅・西口・東口

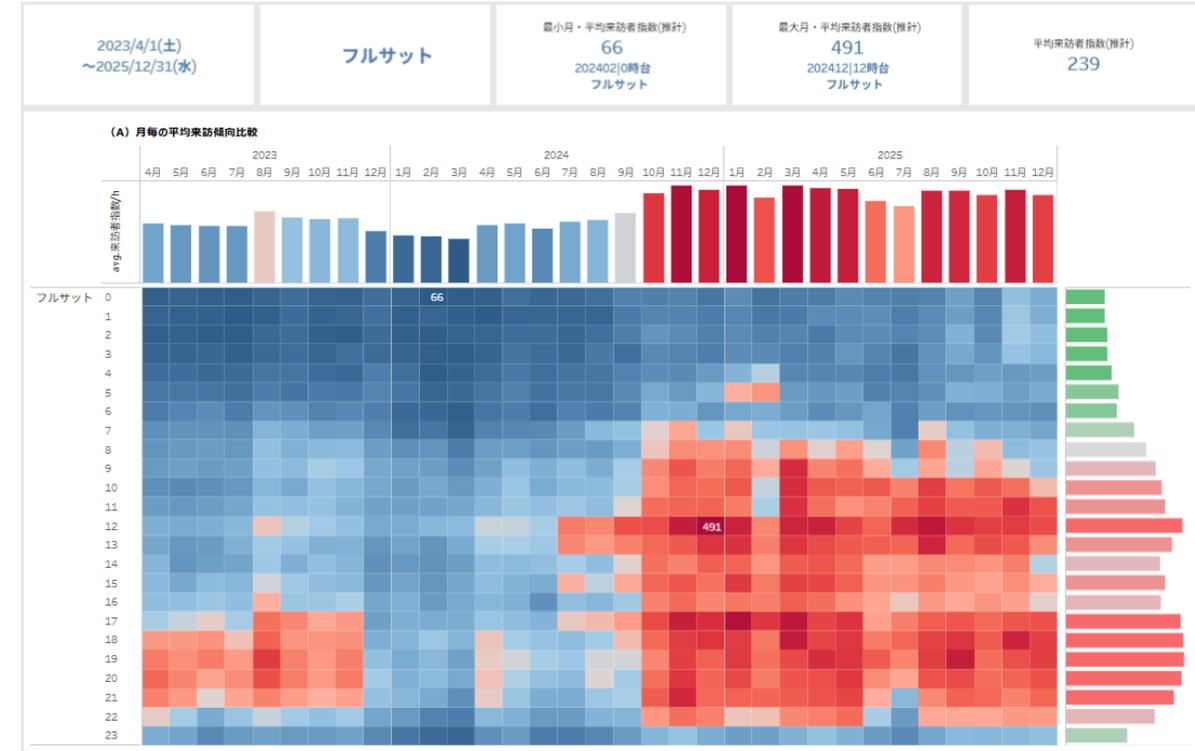
滞在15分以上6時間未満フィルタ (実質“利用滞在”想定)



- エリア全体として
  - 2023年以降月ベースで増加傾向 (2023/4比来訪・滞在が2倍と推測)
- 上越妙高駅
  - 2024年下半年以降、お昼~夕方の新幹線発着時間帯に増加傾向
- 西口
  - 相対的にも駅より来訪・滞在の増加が顕著 (鉄道利用≠駅利用)
- 東口
  - 駅利用と概ね同傾向にあるか (目視においても送迎利用が多い)

フルサット (上越妙高駅西口)

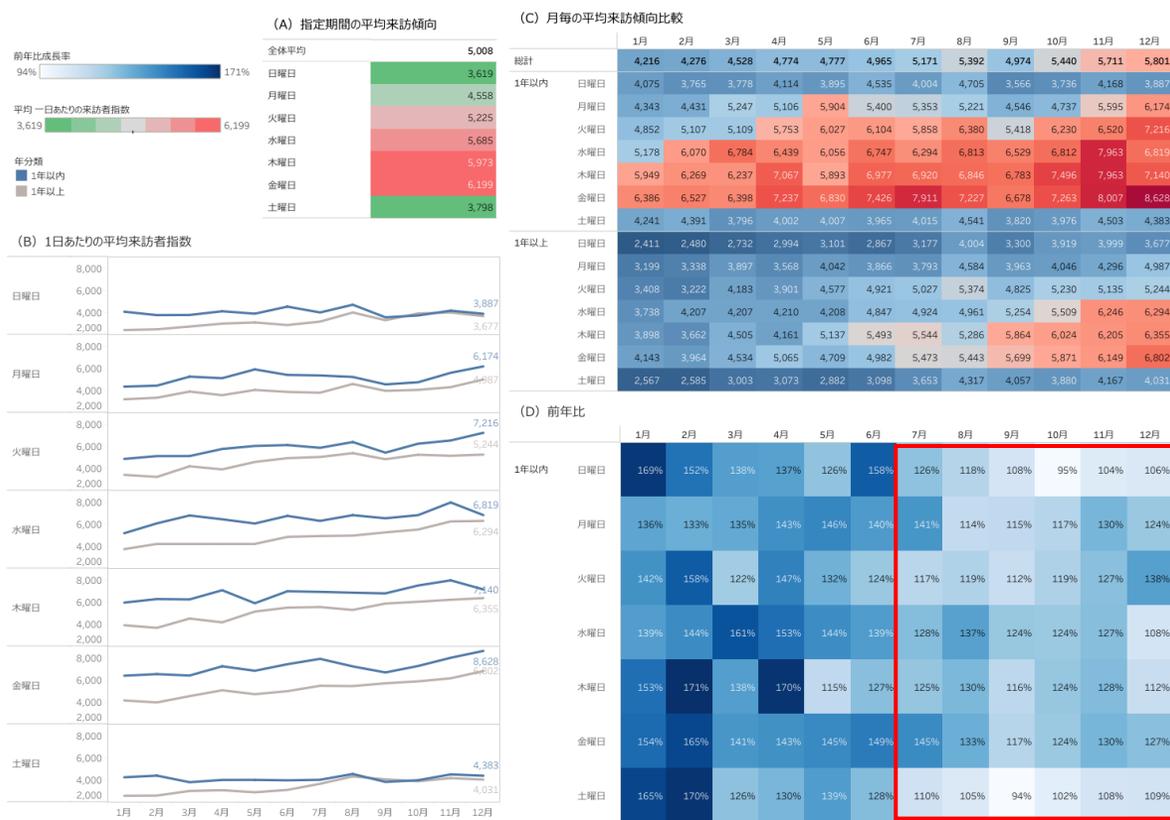
滞在15分以上6時間未満フィルタ (実質“利用滞在”想定)



- フルサット
  - 実質的な“アフターコロナ”で来訪は増えた (2023年)
  - 例年11月から春先まで来訪が減るのが感覚的にも“常”であったが、2024年秋以降の来訪状況は変化 (若干減少することはあっても大幅に来訪が減ることがない)
  - 駅周辺エリア、特に西口にある飲食店街としての認知と利用が加速していると考えられる (夜時間帯営業: 居酒屋・バル3店舗、ラーメン・中華2店舗)

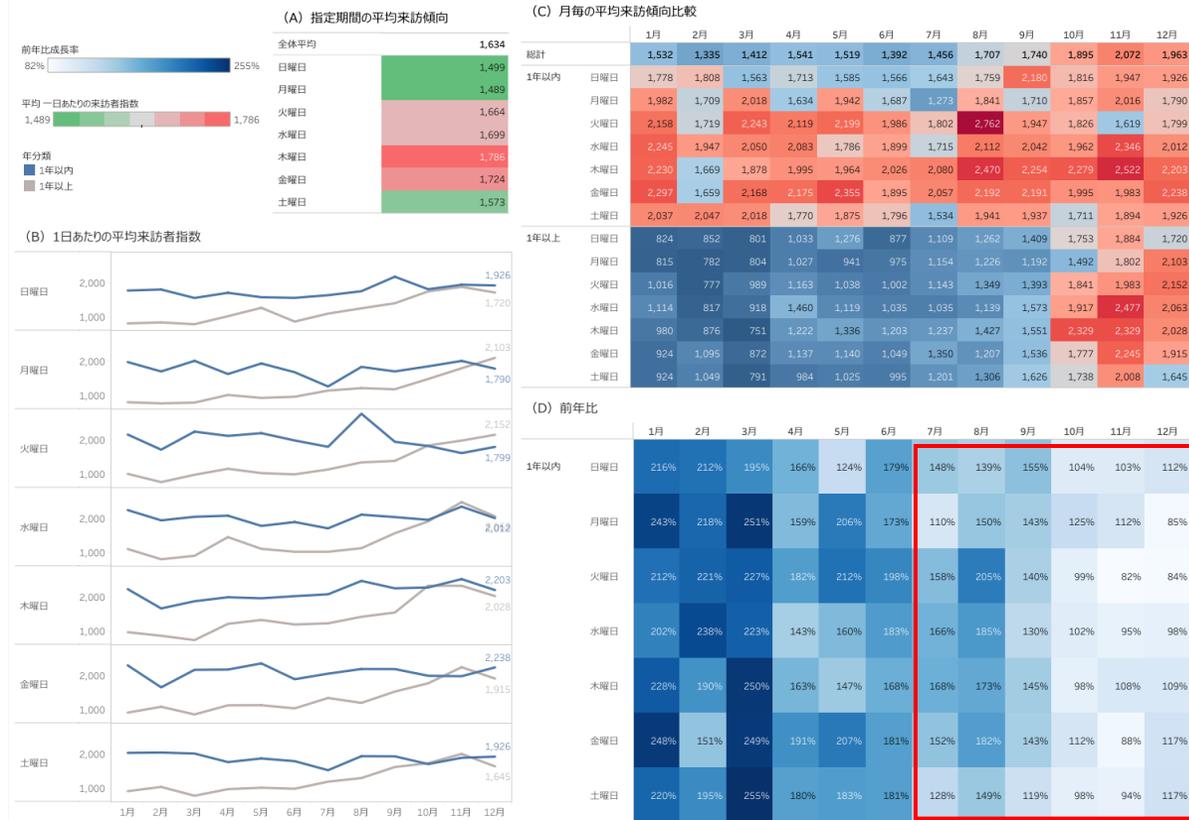
### 上越妙高駅 (新幹線改札/えちごトキめき鉄道改札)

滞在5分以上2時間未満フィルタ (鉄道利用・送迎・自由通路滞在想定)



### フルサット (上越妙高駅西口)

滞在15分以上2時間未満フィルタ (店舗利用・訪問者滞在想定)



(参考) JR東日本発表 乗車数平均 (上越妙高駅)

2015年度 (開業初年度)	2,086
2020年度	762
2021年度	995
2022年度	1,556
2023年度	1,993
2024年度	2,068

- 鉄道利用だけでなく駅利用としての増加の可能性
- 土日よりも平日利用が相対的に多い駅
- 下期の前年比増加割合がデータとしてマイルドに見えるが(赤枠)2024年後半(特に9月以降)からの増加があるため
- ひきつづき駅への来訪は増加傾向である

- 2024年10月以降(駅からくらべて1ヶ月のタイムラグ)の顕著な増加が見られる
- 駅来訪の増加割合よりも多い
  - 鉄道利用だけでなく地元利用・拠点利用の増加可能性
- 平日木曜日がもっとも混雑する
- 2025年6~7月の新店オープン(2点)以降、土日の利用も増加

# レポート概要

本レポートは、上越妙高駅エリアが「通過される場所」から「行動を生む起点」へと変化しつつあることを、定点観測データにより示すものである。

01

## なぜこのレポートか

2015年3月に上越妙高駅が開業して以降、地域の玄関口としての認知や開発は着実に進んできました。

一方で、駅および駅前エリア（駅利用≠鉄道利用）の人の動きが、どのように、どの程度変化しているのかを、政策や事業判断に生かせる形で継続的・定量的に示し、共通認識として参照可能なデータは、十分に整備されていないのが現状です。

02

## なにがわかったか -3年超の長期定点観測でわかったこと- ※本レポートで示すデータは2年8ヶ月間

上越妙高駅が単なる「乗る・降りる」という「通過点」ではなく、「滞在・判断・接続が生まれる場」へと構造的に変化しつつあることが本レポートで示すデータからも示唆されます。

（①年次増加傾向、②曜日・時間帯、エリアの特徴も明確化（休日より平日）、③宿泊・飲食利用増加等）

03

## 誰にとって、何につかえるか

イメージ（所有画像から作成）

来訪調査（目視カウント）等で行われる従来の“結果説明（何人来たか）”だけでなく、本レポートで紹介するデータは、地域の未来に生かせる情報として人の来訪⇒存在⇒滞在の状態について活用可能です。

①自治体・行政、②交通・観光・まちづくり関係者、③商業・事業者・投資検討層への“判断の土台”としてとくに、**定性的な印象や経験則に頼りがちだった判断を、定量データに基づいて説明・合意形成するための補助資料として有効**と考えられます。

# 本レポートの背景と問題意識

01

## 上越妙高駅という交通拠点の特殊性

- ・ 駅開業 ≠ 自動的な経済発展（≠ 人がいるから儲かる）
- ・ 高いポテンシャルの一方で管理・活用主体が複雑
- ・ 地域としての活用判断がされにくい

02

## アフターコロナ × インバウンド

JR東日本発表データも踏まえ、2025年はすでに駅開業年（2015年）同水準以上の来訪・利用が推測される  
 妙高スノーリゾート開発等に呼応するとみられる駅・駅周辺来訪状況がありながらも“主体不在”で現状把握がなされていない（“なんとなく動きがある”以上の自治体・事業者等関係者の共通認識や明確な示唆・判断に乏しい）

03

## 感覚論からの脱却・・・可視化（客観化）へ

体感・目視には限界がある（IT・DXの活用）  
 政策・事業判断のものさし（共通言語）が地域に不足  
 （データ利活用の意識醸成 & データそのもの）



駅利用者にとって上越妙高駅・駅前それぞれに境はない  
**駅周辺のステークホルダーの共通認識を**  
**データ活用で結びつけ、**  
**駅・駅前を通じた地域活性の基礎としたい**

**上越妙高駅・駅エリアの特殊性**

**上越妙高駅**  
 北陸新幹線/えちごトキめき鉄道

**利活用・管理する主体が複雑に交錯**

- ・ 新幹線 JR東日本・JR西日本境界駅
  - ・ 運行管理 JR東日本（長岡・長野）
  - ・ 乗務 JR西日本
- ・ 地域輸送
  - ・ えちごトキめき鉄道
- ・ 駅施設
  - ・ 建設 鉄道運輸機構
  - ・ コンコース 上越市道

開業当初は「乗る・降りる」が中心だったが  
 滞在・判断・接続を含む“駅利用”へと変化しつつある  
**交通結節点としてのポテンシャルは高い**  
 一方で、地域としての活用判断がなされにくい現状

**社会・環境の変化**

- ・ アフターコロナ
- ・ 妙高スノーリゾート開発
- ・ 広域移動・滞在ニーズの拡大



# Methodology and Data Positioning 観測手法とデータの位置付け

## 01 データ取得の基本概念

スマホ、PC、機器等のモバイルデバイスで活用されるWi-Fi（無線LAN）の通信規格を活用  
⇒スマホ≡人の存在と見なし、その存在をもって混雑状況を把握、分析する  
今回のデータ：2023/4～2025/12（2年8ヶ月）

## 02 人のカウントではなく時間軸をとる（推移・滞在）

目視のカウントには限界がある（複数観測者による重複カウント、誤カウント等）

**重複カウント防止、滞在時間の把握は目視では事実上不可能**

モバイルデバイスを捕捉することで来訪の時間・期間推移や、混雑時の来訪推計が可能に

## 03 仮説検証のツール

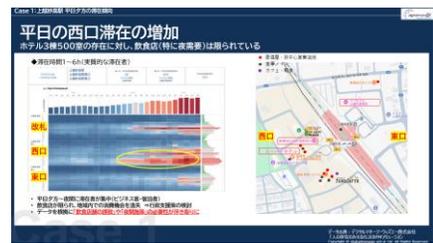
シンプルに混雑・活況・閑散の把握に長ける

**1日内の時間推移の把握、あるいは長期の定点観測に長ける**

他の観測手法とくらべて遅延なく混雑等の情報が確認しやすい（可視化のタイムラグが少ない）



2022/8/16  
日本経済新聞33面  
(信越)



# 定点観測データからみえる変化

定点観測データは、上越妙高駅前が「人が行動を起こす前に一時的に滞在する“前室”として機能し始めている」ことを示している。

## 01 月別来訪傾向（全体傾向）の観測・蓄積

2023年以降の駅利用（≠鉄道利用）増加傾向を捕捉

滞在をつかむ⇒人の存在を通過・滞在の時間推移で可視化可能にする

## 02 人のカウントではなく時間軸をとる（推移・滞在）

時間帯（鉄道発着時間）・曜日（平日/休日）

⇒改札・東口・西口の特性理解・変化が確認できる

・・・上越妙高駅は平日利用が休日利用よりも相対的に多い

⇒ **滞在は“行動の準備時間”という理解**



## 03 仮説検証のツール

**唯一万能なデータはない（「JR発表データ＝鉄道利用」で駅の利活用・活況・閑散を判断できない）**

駅利用（場の価値の向上経過）を多面・多角的に見るためのデータのの一つとしての長期的に観測を行い（定点観測）利活用することを推進したい

# 上越妙高駅エリア-今何がおきているか-

## 01 駅前是人々のアクションを起こす“前室”に

地域の玄関、アクションを起こす人の前室化

前室：フォワイエ (Foyer) / アンテチャンバー (Antechamber)

ゲートウェイ⇒ハブからさらに変遷

⇒次の行動が生まれる場所への変貌

## 02 政策・事業への利活用性の増大

観光施策への具体的な活用

“エキマエ”の活用

商業・産業誘致の可能性

⇒平日出張客の活況 ※フルサット夕方時間帯の活況

⇒人の来訪増大⇒ビジネスチャンスの増大としてPR・活用

⇒産業誘致、飲食店/エリア日中居住者への対応・整備

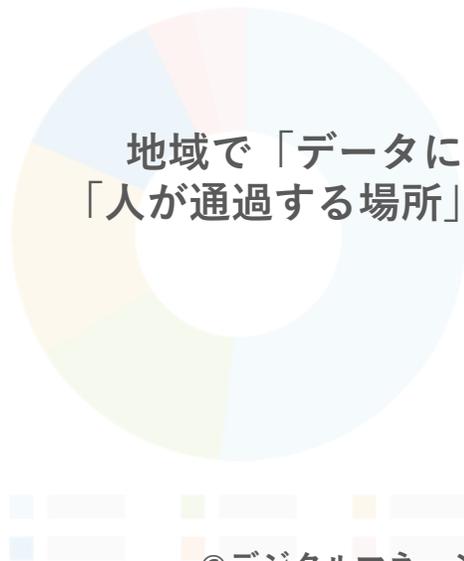
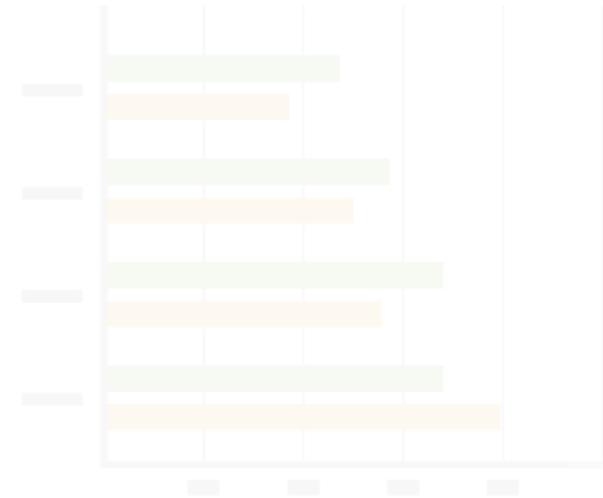
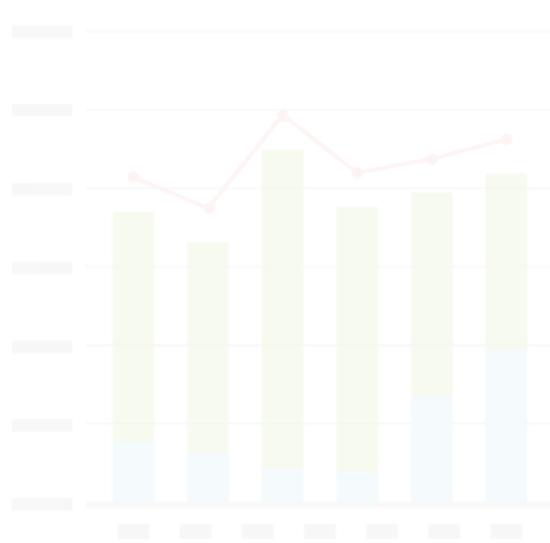
## 03 場の価値を見極め、人口減少時代に人を呼ぶサイクルの基盤ができつつある

上越妙高駅西口の平日夕方以降の滞在増が明らか

政策や、事業者の動きが、場の価値向上にリンクしていない

上越妙高駅・駅周辺の“主体”づくりと、“方向性”づくり・実行体制づくりが必要





本レポートは、分析結果そのものよりも、  
 地域で「データに基づく判断」を行うための出発点としての活用を意図しています。  
 「人が通過する場所」ではなく、「人が判断し、行動を起こす前室」として捉え直すための  
 最初の共通言語となれば幸甚です

問い合わせ先

## 調査/報告者について



会社概要

会社名	デジタルマネージ・ウィズエー株式会社 (Digitalmanage Wiz-A Ltd.)
法人番号	1110001033061 (T1110001033061)
代表取締役	横田 孝宜
設立	2018年(平成30年)3月1日
会計期間	1月1日~12月31日
所在地	新潟県上越市大字石沢778番地1(本店登記地) 新潟県上越市大和5-1-5 上越妙高駅西口 フルサット内(オフィス)
電話	025-540-9011
URL	<a href="https://wiz-a.jp">https://wiz-a.jp</a>
事業内容	IT・データ活用による業務効率化・事業支援 業種(日本標準産業分類) G 情報通信業 39 情報サービス業 399 その他の情報サービス業
取引銀行	八十二銀行 高田支店、第四北越銀行 高田営業部、他 一般社団法人 LBMA Japan
加盟団体	上越商工会議所 特定非営利活動法人 上越地域活性化機構 (ORAJA) 一般社団法人 新潟ベンチャー協会
主な取引先 (民間)	株式会社北信越地域資源研究所、旅ナカラボ合同会社、ダイハツ工業株式会社、株式会社新潟ダイハツモーターズ、株式会社 JTB 長岡支店、片建設株式会社、株式会社エデュテイメントブラネット
主な取引先 (公的/団体)	荒川パーキング活性化協議会(村上市)
事業協力先	新潟県、新潟県上越市、新潟県妙高市、クラスメンツド株式会社、一般社団法人妙高ツーリズムマネジメント、一般社団法人湯沢町観光まちづくり機構、他

## 2023~2025 事業化 顧客提供と地域での実証



越後湯沢のウインターシーズン



移動販売場所での商圏分析(大阪)

ダイハツ工業・JTB株式会社のPoCにおける観測・データ提供

## 2018 新潟県村上市の実証実験に プロトタイプで参画



令和3年度新潟県  
スタートアップ・アイデアプロジェクト  
(地域課題解決提案)

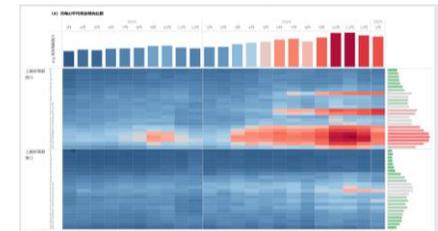
2022.9  
上越妙高駅・駅エリア  
データ取得開始

## 2017 駅前商業施設の 来訪カウントを自動化



新潟日報(上越)  
2022年9月7日

2025~  
地域のデータ利活用をテーマ  
データの観測・提供から  
利活用・伴走支援的存在へ



《技術ブレークスルー》  
令和7年度にいがた産業創造機構  
ベンチャー成長加速化支援事業採択

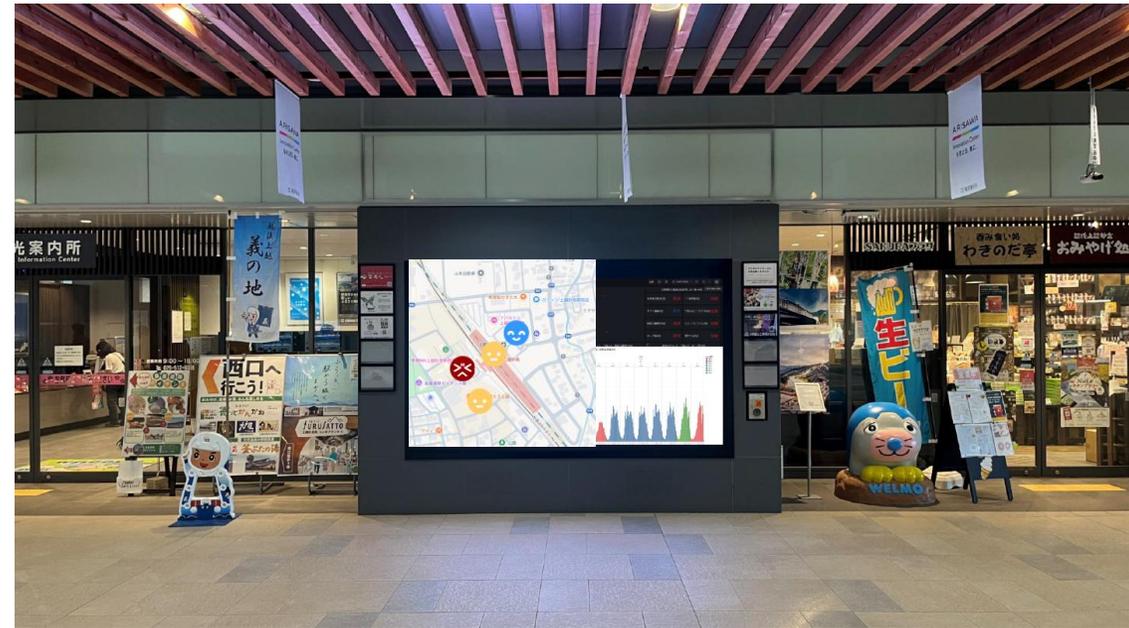
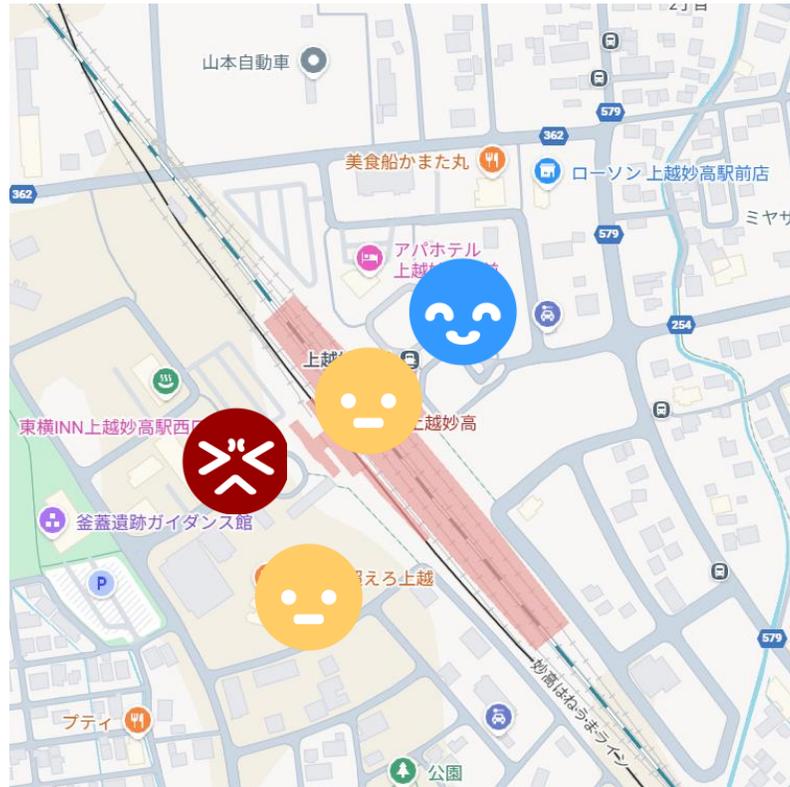
In Active Development – Launching Soon

# 混雑状況のリアルタイム可視化サービス(2026.3リリース予定)

2026年3月リリース予定 NICO (にいがた産業創出機構“ベンチャー加速化支援”採択事業)

混雑状況を遅延10分以内で更新し  
Web上で情報提供 (イメージ)

一過性ではなく、日常・“いま”を可視化するツール



デジタルサイネージや、イベント情報Webページにて  
リアルタイムでの情報更新を可能に (画面はイメージ)

地図上のセンサー設置位置に画像もしくは  
“混雑”“盛況”“快適”等文字情報で表現